

「土砂災害から命を守るために」

三豊市立桑山小学校 四年 小畠 桜 さん

わたしはテレビで土砂災害のニュースを見たことがあります。大雨がふったときに、山の土や石がくずれて、家や道路をおおってしまうようでした。家がつぶれてしまったり、車が流されてしまったりしていて、とてもこわいと思いました。土砂が流れる力はとても強く、人の力では止められないことを知りました。ニュースでは、にげおくれてけがをした人や、助けをよんでる人のことを伝えていて、見ていているだけでもむねがドキドキしました。それを見て、わたしの家の近くでもこんなことが起きたらどうしようとしました。わたしの家のまわりにも山や用水路があります。大雨がふったときには、用水路の水があふれたり、山の土がくずれたりするかもしれません。自然は楽しいものだけど、時には人のくらしをふあんにさせることもあるのだと思きました。

では、土砂災害から自分や家族の命を守るためにわたしは何ができるのでしょうか。まず大切なのは、テレビやスマートフォン、市や町からの放送などをよく聞くことだと思います。「ひなんしてください」というお知らせが出たら、できるだけ早く行動することが命を守ることにつながります。土砂災害けいかい情報が出たら、すぐに家族に知らせて、一緒に安全な場所へ行けるようにしたいです。家の中でもじゅんびできることができます。たとえば、すぐに持ち出せるようにリュックを用意しておくことです。その中には、水や食べもの、かい中電灯やタオル、ラジオなどを入れておきます。家族と連絡がとれなくなったときのために、電話番号を書いたメモを入れておくのも安心です。わたしの家でも、ひじょう用のリュックを用意していて、わたしはそれを見て少し安心しました。

ニュースでは、地域の人たちが力を合わせてひなんしている場面もありました。お年寄りを手伝ったり、小さい子どもをだっこしたりして、みんなでにげていました。そのすがたを見て、災害のときには助け合うことがとても大切だなと思いました。一人だけでにげるのではなく、近所の人とも声をかけ合えば、もっと多くの命を守ることができます。わたしも、もし近所のおじいさんやおばあさんがこまっていたら、「いっしょに行きましょう」と声をかけられるようになりたいです。

学校でもひなん訓練があります。サイレンが鳴ったときに、先生の話をしっかりと聞いて、走ったりさわいだりせずに落ち着いて行動するように言われています。わたしは、災害のときにあわててしまうと危ないことにつながると学びました。ふだんの訓練を大切にして本当に起きたときにすぐ行動できるようになりたいと思います。

テレビで見た土砂災害の映ぞうはとてもこわかったけれど、それを見たからこそ、

命を守るためにできることを考えることができました。わたしはこれからも、家族と話し合ったり、ひなん訓練にまじめに取り組んだりして、自分や家族を守れるようにしたいです。そして、もし地いきの人がこまっていたら助けられるような人になりたいと思います。土砂災害はとてもこわいけれど、みんなで力を合わせればのりこえられるはずです。わたしもその一人として、これからも安全に気をつけながら生活していきたいです。